

講義コード	221017J
講義科目名称	医療保健統計学【看護1年】
英文科目名称	Medical Health Statistics
講義期間	後期
学科	適用 - 看護学科(2026)
配当年	1
単位数	2
科目必選区分	選択
授業形態	講義
担当教員	鈴木 研太 / 白戸 亮吉
曜日・時限	後期 金曜日 3時限 マルチメディア教室 / 後期 金曜日 3時限 4 2 1・4 2 2 教室
関連するディプロマポリシー	DP DP

授業概要	看護師や保健師に必要な医療保健統計の知識と統計解析手法を学び、得た知識と技術を適切に利用できる能力を身につける。 医療従事者および看護師・保健師として知っておくべき、保健・医療・福祉の各分野や看護学の各領域に関わる医療保健統計学の知識・技術について理解し、説明できるようになる。 医療や保健に関わる種々のデータの収集（調査）、資料の整理、データの集計等を行い、それをもとに全体像を推測し、仮説を検証するための基本的な医療保健統計学の知識および統計処理・検定手法を身につける。
学修の到達目標	看護学における各領域の実践に必要な医療保健統計学の基礎知識を身につける。 地域社会における健康支援の実践と健康課題に関する研究を行うための保健統計の知識および統計解析手法の知識・技術を身につける。
予習・復習の内容およびそれに必要な時間	講義目的を理解し、あらかじめ教科書を読んでおくこと（60分）。 毎回の講義内容を見直し、配布資料、演習問題等を中心によく復習し、次の講義までに前回の講義の内容を必ず理解しておくこと（3.5時間）。 本講義内容の修得には、最低90時間以上の学修時間を要し、毎回4.5時間程度の予習・復習が必要
成績評価の方法・基準	1. 評価基準は、授業概要および授業計画に記載した内容の理解度、学修の到達目標の達成度による。 2. 成績の評価は、定期試験（90%）、課題等（10%）を総合して行う。
試験・レポート等に対するフィードバックの方法	課題等に対するフィードバック（正解の提示と解説）および講義・試験・課題等に対する疑問点や質問に対する回答は講義後に対面・メール等での説明もしくはPortalサイト、CoursePowerへの掲示によって行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN
1.	『ていねいな保健統計学 第2』	白戸亮吉、鈴木研太	羊土社	2022	978-4-7581-0976-5
2.					
3.					

参考図書

No	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN
1.	『『教養としてのデータサイエ』	北側源四郎、竹村彰通	講談社	2024	978-4-06-537939-4
2.					
3.					

教員からのメッセージ	教科書、配布プリントを使用します。 内容の理解を確認するため、演習（実技も含む）・確認テストを行います。 2年次に学ぶ、公衆衛生学、疫学の理解に内容に必要な内容、看護師国家試験においてよく出題される人口統計の内容などを含みます。保健師希望でなくとも受講することをお勧めします。 保健師国試受験希望者は必修です。		
当該科目に関連する職歴と科目への活かし方	実務経験の有無：		
その他			
参考URL	表示名：		
	URL：		
授業方式	オンライン授業	対面授業	併用
		○	

	回数	テーマ	内容
授業計画	1	統計学概論、データの種類	統計学はデータの扱い方を考える学問である。統計学で扱う内容、一番の基本であるデータの種類（量的変数、質的変数）とその分類方法、データを起点としたものの見方を説明できるようになる。担当教員：白戸
	2	代表値とバラツキ	データの分布（ヒストグラム）・代表値（最頻値、中央値、平均値）とそれらの性質の違い・データのばらつき（分位数、分散、標準偏差、偏差値）・外れ値の特徴について説明できるようになる。担当教員：白戸
	3	表と図の利用、確率分布	表と図を用いたデータ表現の基本的な考え方（棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図）、データ可視化（複合グラフ、2軸グラフ・関係性の可視化）について理解できるようにする。代表的な確率分布の性質を説明できるようになる。担当教員：白戸
	4	相関と回帰	二変量データの表現方法（散布図）と関係の示し方について理解する。相関と因果（相関係数、擬似相関、交絡）に関して説明できるようになる。重回帰分析、主成分分析、判別関数等の応用的な手法についても理解できる。担当教員：白戸
	5	推定と検定	記述統計学と推測統計学の違い、母集団と標本について理解できるようにする。仮説検証・知識発見・原因究明（推定と検定）に関わる基本的な考え方を説明できるようになる。担当教員：白戸
	6	検定の応用	t検定の使い分けと応用、順位データとカテゴリデータに対する検定方法を理解し、データの比較（条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト）に関する考え方、データ解析の活用事例について説明できるようになる。担当教員：白戸
	7	データの活用	データの取得（機械判読可能なデータの作成・表記方法）、データの集計（和、平均）、データの並び替え、ランキング、データサイエンスのサイクルについて理解する。演習を通して実際にデータを読み、説明し、扱うことができるようになる。担当教員：白戸
	8	保健統計調査の基礎	集団の健康指標を調査データ・実験データ・統計資料から得ることの意義を理解する。保健統計調査の種類・データ（一次データ・二次データ・構造化データ・非構造化データ）の特徴、データ量の増加とSociety5.0、医療ビッグデータとデータマイニングについて説明できるようになる。担当教員：鈴木
	9	保健統計調査（基幹統計）	基幹統計としての国勢調査、人口動態統計、国民生活基礎調査、患者調査、医療施設調査、学校保健統計、社会生活基本調査などの保健統計調査について説明できるようになる。担当教員：鈴木（研）
	10	保健統計調査（基礎的な統計）	感染症発生動向調査、食中毒統計、国民健康・栄養調査、地域保健・健康増進事業報告、身体障害児・者等実態調査などの保健統計調査について説明できるようになる。担当教員：鈴木（研）
	11	保健統計調査（医療経済統計）、 疾病・障害の定義と分類	国民医療費、介護サービス施設・事業所調査などの保健統計調査、国際疾病分類（ICD）、国際生活機能分類（ICF）などの疾病や障害の定義、分類について説明できるようになる。担当教員：鈴木（研）
	12	人口統計（人口静態統計）	人口静態統計（日本の人口、年少人口、老年人口、世界の人口など）について説明できるようになる。担当教員：鈴木（研）
	13	人口統計（人口動態統計と主な健康指標）	人口動態統計（出生と人口再生産、死亡、死産、婚姻、離婚など）、健康水準をはかる上での率と比、合計特殊出生率、年齢調整死亡率、標準化死亡比（SMR）について説明できるようになる。担当教員：鈴木
	14	人口統計（生命表）	人口集団での生命表の考え方と計算方法、平均寿命、健康寿命について説明できるようになる。担当教員：鈴木（研）
	15	情報処理(医療情報とデータ活用)	医療におけるデータの電子化(DX)と情報セキュリティ、ELSI・個人情報保護・データ倫理・匿名加工情報、データベース・オープンデータの利活用、レコードリンケージ、IoT・AI・生成AI・ロボットの利活用・応用、ヘルスケアにおけるデータ・AI利活用事例について説明できるようになる。担当教員：鈴木

授業計画	回数	テーマ	内容
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
30			